

平成29年度 事業報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

公益財団法人理想教育財団

平成29年度実施事業の内容

事業区分一覧

事業	内 容	
A-1	学校情報伝達システムの調査・研究 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究	調査・研究事業
A-2	教師による自作教材の調査・研究 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的効果などの調査・研究	
A-3	児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究 理想教育財団教育フォーラムの開催 壁新聞づくりの調査・研究	
B-1	教育関連出版物の刊行 通信づくりに役立つ冊子等の刊行	情報提供事業
B-2	研究情報誌の発行 「季刊理想」の発行	
B-3	ホームページの運用 事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。	
C-1	後援・支援の事業 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成	助成・顕彰事業
C-2	新聞教育の普及・振興 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援	
C-3	日本人学校等への支援・助成 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援	
C-4	コンクールの開催・顕彰 プリントコミュニケーションひろばの開催	

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

①学校における通信活動の教育的効果に関する調査研究(略称 TCK)	
経緯:プリントコミュニケーションひろばを通して「通信」の役割と価値観の変化を感じ、「学校における通信活動の教育効果—これからの通信活動のあるべき姿は—」をテーマに研究をスタート。教員サイド、保護者サイドの両面からのアンケート調査を実施し、通信の持つ意味合いを探り、財団としての提案をする。	
I「教員・管理職向けアンケート」、II「保護者向けアンケート」	
ねらい	学校でのさまざまな問題が発生する昨今の現状を鑑みたとき、子どもたちが安心・安全に過ごせる学級づくりが望まれる。私たちはプリコミ主催者としてその有効な手段としての通信の価値を見出し促進させることによりより良い学級づくりに貢献したい。
実施内容	1) Iは教員、管理職向けの2種のアンケート。全国の6,101校に発送、5,049通を回収した。 平成29年3月に速報版の報告書を作成。ホームページに公開。 2) IIは東京都を中心に29の都道府県の保護者対象に618通を回収。 本年度10月に速報版第二弾として報告書を作成。ホームページに公開。
計画	最終報告書を平成30年6月に完成させる予定。
②練馬区学校栄養士一般研修(運営支援)	
日時	7月28日(金)
場所・参加者	練馬区役所本庁舎 参加者:100名 講師:吉成勝好先生(新聞教育支援センター)
内容	練馬区教育委員会主催。給食だよりの作り方を研修。
③第2回初任者講師等対象研修会(講師派遣)	
日時	8月4日(金)13:30~16:00
場所・参加者	多賀城市市民活動サポートセンター 参加者:27名 講師:今宮信吾先生(プール学院大学)
内容	多賀城市教育委員会主催。テーマ:「教師力を向上させる～授業力と学級を結ぶ～」 「楽しくなければ学級ではない」を縦糸に、笑いを織り交せて、教師力、学級力、カリキュラムマネジメント力、はがき新聞とツール活用、ツール活用体験(演習)という内容で進められた。
④東洋大学文学部教育学科 教職実践演習第1回(講師派遣)	
日時	10月2日(月)13:00~14:30
場所・参加者	文学部研修室 受講者:初等教育専攻第4学年50名 講師:吉成勝好先生
内容	はがき新聞づくり テーマ:「楽しいはがき俳句新聞づくり」 表現力・読解力を高めるための指導法を学ぶ講座。
⑤東洋大学文学部教育学科 教職実践演習第2回(講師派遣)	
日時	10月9日(月)13:00~14:30
場所・参加者	文学部研修室 受講者:初等教育専攻第4学年50名 講師:吉成勝好先生
内容	学級通信づくり テーマ:「学級経営のポイント」 実際の学級通信づくりを学ぶ講座。
⑥京都市小学校教育研究会「第2回青年教育研修会・幹事研修会」(講師派遣)	
日時	10月27日(金)18:30~20:30
場所・参加者	京都市総合教育センター(永松記念ホール) 参加者:150名 講師:達富洋二先生(佐賀大学)
内容	本研究会は京都市の小学校における40の研究会の全体研究会。 講演「言葉によるものの見方・考え方を高める国語科授業の創造」
⑦大阪総合保育大学児童保育学部 教職実践演習(講師派遣)	
日時	11月1日(水) 第1回13:00~14:30 第2回14:45~16:15
場所・参加者	B学舎教室 受講者:幼・小教職課程4回生各回70名 講師:徳永加代先生(帝塚山大学)
内容	学級通信づくり テーマ:「心をつなぐ通信づくり」 学級通信づくりのテクニックやノウハウを伝授する講座。

⑧新潟薬科大学応用生命科学部 教職実践演習(講師派遣)	
日時	12月15日(金)13:15~14:45、15:00~16:45
場所・参加者	応用生命科学部教室 受講者：理科教職課程4年生20名 講師：吉成勝好先生
内容	通信づくり テーマ:理科通信づくり
⑨仙台市教育センター「フレッシュ先生3年次研修」(講師派遣)	
日時	1月25日(木)14:00~16:45
場所・参加者	仙台市教育センター大研修室 参加者：110名 講師：吉成勝好先生
内容	講義「学級通信を通じた学級づくり概論～新しい学校と子どもたちに出会うために～」

A-2教師による自作教材の調査・研究

2色プリントの効果的利用に関する調査・研究のまとめとして制作した「2色プリントの活用事例」を配布した。

A-3児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

調査・研究対象について
学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。今年度の調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」のテーマとしては物語文以外に短歌俳句や特別な教科道徳を含むこととした。また新規に「語彙力向上」を目的に「私の見つけた言葉ノート」を試作し、現場での実証を行った。

1. 主な活動状況

①実践援助としての助成状況:特別助成校(プリンタ付)、一般助成校(プリンタ無し) 3月末現在			
	特別助成校	一般助成校	合計
小学校	363	792	1,155
中学校	180	459	639
高校大学	39	59	98
計	582	1,310	1,892
2017.4月	536	1,064	1,600
増減	+46	+246	+292
所感	はがき新聞の教育的効果の認知が広がり、全新研大会やNIEの大会はもちろんのこと、国語の研究大会などでもはがき新聞の実践発表が散見されるなど、順調に普及が進行している。今後は「書く力」に加え、言語活動の質的な向上を図る為に試作した言葉ノート・言葉のポケット等の実効性を検証し更に研究して行きたい。		

②はがき新聞推進活動

1)H28年度実施した実践事例集(抜粋版)の制作。	
2)朝日新聞のWebサイトteachers'メールにはがき新聞事例を掲載	
3)はがき新聞研究会の開催	
4)H29年度実践事例報告を依頼	
ねらい	今年度は物語文の読解を目的とした実践、俳句・短歌の説明文を書く実践、道徳の授業における実践を募集。事例に対する講評のフィードバック及び一部を実践事例集(財団助成物)として公開し、はがき新聞の普及の糧とする。
対象 (実践同意校)	小学校 19作品
	道徳×5、大造じいさんとガン×4、俳句・短歌×3、ごんぎつね×2他
	中学校 3作品
	走れメロス×1、少年の日の思い出×1、道徳×1他

締め切り	平成30年2月までに実践報告をいただく(募集 平成29年5月)	
5)私が見つけた言葉ノートの作成と実証のための配布		
ねらい	新学習指導要領が重視する「語彙力の向上」を目的に、はがき新聞研究会メンバーによる検討を経て本ノートを作成。今年度は試験的に配布して効果の検証をした。	
内容	①私が見つけた言葉ノート(小学校入門編、発展編) ②私が見つけた言葉ノート(中学校版A,B) ※分からない言葉、興味をもった言葉などを書きとめ、語彙を調べ、文例を考えることにより新しい言葉を身に着けさせるノート。	
対象	小学校 13校 中学校 3校	※平成30年2月締め切り→現在集計し森山教授他に講評を依頼中

2. はがき新聞の教育効果についての研究委託

①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」		
内容	はがき新聞を「コンパクトテキスト産出」型の取り組みとして位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、その効果を測定する。はがき新聞研究会(関東・関西)の座長役を依頼。	
実施期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
研究委託者	早稲田大学文学学術院 教授 森山卓郎先生 1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。	
②研究テーマ「子どもがはがき新聞を通して、学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明(学級力向上プロジェクト)」		
内容	学級経営における教師・子ども・家庭・地域のコミュニケーション促進手段としてのはがき新聞の利用方法等の研究。学級力向上研究会(関東・関西・中部)の総括を依頼。	
実施期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
研究委託者	早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員。専門は、授業デザイン・学習指導論。	

3. 教育フォーラムの開催

①第7回理想教育財団教育フォーラム	
日時	8月20日(日)13:00～17:45
場所・参加者	グランフロント大阪北館B2F コングレコンベンションセンター 参加250名
内容	(1)基調講演 講師:國學院大學人間開発学部 教授 杉田洋先生 演題:「アクティブ・ラーニングとしての特別活動と学級づくり」 (2)シンポジウム「はがき新聞で高める学級力」 コーディネーター 早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生 シンポジスト:琉球大学教育学部附属小学校研究主任 新垣寿志先生 知立市立八ツ田小学校 校長 原田悦子先生 鳥取市立千代南中学校 教諭 鈴木洋一郎先生 広島市立矢野中学校 主幹 神垣幸一先生 (3)特別講演 講師:文部科学省初等中等教育局 教科調査官(特別活動) 安部恭子先生 演題:「学習指導要領改訂の要点～特別活動への期待～」

②第8回理想教育財団教育フォーラム	
日 時	2月4日(日)13:00~17:45
場所・参加者	中央区銀座 時事通信ホール 参加252名
内 容	<p>(1)特別講演 講師:文部科学省初等中等教育局 教科調査官(道徳) 浅見哲也先生 演題:「学習指導要領改訂の要点ー特別の教科 道徳の実施に向けてー」</p> <p>(2)基調提案Ⅰ 講師:愛知教育大学 准教授 磯部征尊先生 演題:「主体的・協働的な学級づくりのすすめ ーマンガで学ぶはがき新聞の活用ー」</p> <p>(3)基調提案Ⅱ 講師:早稲田大学教職大学院 客員教授 遠藤真司先生 演題:「豊かな言語活動を通した新しい学級づくり」</p> <p>(4)座談会 テーマ:「道徳科における授業づくりと評価のあり方」 司会:早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生 登壇者:文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見哲也先生 宇部市立東岐波小学校 校長 坂本哲彦先生 新宿区立落合第二小学校 教諭 梅澤泉先生 尾張旭市立旭中学校 教諭 彦田泰輔先生</p>

4. その他講習会・研修会等

①和光市立第三中学校 校内研修会(講師派遣)	
日 時	5月31日(水)13:40~16:30
場所・参加者	和光市立第三中学校 田中博之先生(早稲田大学)を講師として派遣。参加者は校内教員他。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「望ましい集団生活をつくる学級力と自治能力の育成を目指して」 ・2年4組の研究授業見学の後、研究協議会。田中先生の指導と講演。首都圏地区においての中学校の学級力の実践校は少ない為、本校は貴重な位置付けとなる。

②学級力向上研究会関西部会(開催支援)	
日 時	6月4日(日)14:00~17:00
場所・参加者	新大阪丸ビル 参加23名 部会長:今宮信吾先生(プール学院大学)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・8/20教育フォーラムを意識した実践発表が6校からあった。 研究会発足して間もないが各先生方の努力の跡が感じられる研究会だった。

③学級力向上研究会中部部会(開催支援)	
日 時	6月17日(土)13:30~17:00
場所・参加者	名古屋ビルディング 参加31名 部会長:磯部征尊先生(愛知教育大学)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・学級力向上プロジェクト推進における今年度の活動計画 ・学級力漫画のリリース計画、YouTube利用による学級力向上prj提案など事例発表7件。 ・8月教育フォーラム案内他 ※アクティブ・ラーニングの学級づくり5/26刊行

④名古屋市立港西小学校校内研修(講師派遣)	
日 時	7月11日(火)15:00~16:30
場所・参加者	港西小学校 参加者20名 講師:磯部征尊先生
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・学級力向上プロジェクトの実践研修 ・安定した学級経営をしたいとの要望から講師派遣となった。校区である宝神中学校も同様の環境であり小中学校で連動させたい。

⑤学級力向上研究会関西部会(開催支援)	
---------------------	--

日 時	7月23日(日) 14:00～17:00
場所・参加者	新大阪丸ビル 参加20名 部会長:今宮信吾先生
内 容	・8/20教育フォーラム事前打合せを兼ねて開催。 ・事例発表は7件、継続発表もあり着実に学級力向上プロジェクトが浸透している様子が伺える。

⑥学級力向上研究会関東部会(開催支援)	
日 時	7月30日(日)13:30～17:00
場所・参加者	財団会議室 参加31名 部会長:遠藤真司先生(早稲田大学)
内 容	関東部会の立ち上げ。基調提案、3件の事例発表と遠藤先生と校長先生のディスカッション。

⑦全国特別活動研究大会広島大会(助成物支援)	
日 時	8月2日(水)・3日(木)
場所・参加者	初日:広島市特別支援学校にて 2日目:広島国際会議場にて 参加者800名
内 容	受付にて財団資料(助成品一覧・事例集等)配布。

⑧東京都小学校学級経営研究会夏季研究会(助成物支援)	
日 時	8月4日(金)10:00～16:00
場所・参加者	練馬区立区民・産業プラザ 200名
内 容	学級力向上プロジェクト関連資料の展示、配布。

⑨はがき新聞研究会(関東・関西合同)+ミニフォーラム(主催)	
日 時	8月6日(日)13:30～18:00
場所・参加者	有楽町朝日ホールスクエア 参加43名
内 容	・はがき新聞研究会:近況&実践事例報告 ・ミニフォーラム:「語彙力向上に向けた授業の取り組みについて～言葉ノートの活用を通して～」 金田一秀穂先生(杏林大学)、森山卓郎先生(早稲田大学)、矢吹正徳先生(日本教育新聞社)による鼎談を実施。

⑩第5回はがき新聞ワークショップ(主催)	
日 時	9月3日(日)14:00～16:00
場所・参加者	新大阪丸ビル別館 参加18名 講師:徳永加代先生(帝塚山大学)
内 容	「友達に薦めたい絵本(本)」をテーマにはがき新聞作りを実習。 出来上がった作品をプリンタ出力し、掲示によって交流。

⑪学級力向上研究会中部部会(開催支援)	
日 時	9月30日(土)13:30～17:00
場所・参加者	名古屋駅前会議室 参加45名 部会長:磯部征尊先生
内 容	磯部先生による今後の方針発表の後、6件の事例発表があった。 Youtubeによる学級力啓蒙動画の発表や新しいグラフ出力の紹介などがあった。

⑫学級力向上研究会関西部会(開催支援)	
日 時	11月12日(日)14:00～17:00
場所・参加者	梅田センタービル 参加13名 部会長:今宮信吾先生
内 容	実践中の事例の中間報告とアドバイス。部会としてのホームページ作成についての表明。

⑬岐阜県関市立津保川中学校公開授業・協議会(講師派遣)	
日 時	11月15日(水)14:00～16:30
場所・参加者	津保川中学校 参加者 30名 講師:磯部征尊先生
内 容	関市では全市で学級力向上プロジェクトを実施しており、毎年、小・中学校各1校ずつが公開授業と授業研究会開催している。そこに講師として磯部先生を派遣。市内小学校18校、中学校9校、全27校からは各1名参加。全市での事例は稀であり、学級力と学力・いじめ・不登校などの関連の調査ができるようにしたい。尚、はがき新聞の実践校は少なく今後講師派遣とともに普及させていきたい。

⑭全国小中一貫校小規模校サミット(資料支援)	
-------------------------------	--

日 時	11月18日(土)14:00～
場所・参加者	奈良市立田原小学校 330名
内 容	小中ギャップの解消、幅広い年齢層での教育環境提供、少子化・過疎化への対応等により一貫教育が進行している。とりわけこの小規模校によるサミットは一貫教育のメリットが凝縮しており資料支援をした。

⑮第19回おきなわNIEセミナー(講師派遣)	
日 時	12月2日(土)14:00～16:30
場所・参加者	琉球新報社8階会議室 参加33名(小学校教員20名、中学校教員6名、他7名) 講師：今宮信吾先生
内 容	テーマ:「主体的に書き、対話を生み、学びを深めるはがき新聞づくり」

⑯世田谷区立東深沢小学校 若手教員のOJT研修会(開催支援)	
日 時	12月20日(水)14:30～16:00
場所・参加者	東深沢小学校ランチルーム 15名
内 容	学級力向上プロジェクトの説明会を実施。

⑰学級力向上研究会中部部会(開催支援)	
日 時	2月17日(土)13:30～17:00
場所・参加者	名古屋ダイヤビルディング2号館 参加70名 部会長:磯部征尊先生
内 容	8件の活動報告とフリーディスカッション。指導・助言として田中博之先生も出席。

⑱学級力向上研究会関西部会(開催支援)	
日 時	2月18日(日)14:00～17:00
場所・参加者	梅田センタービル 参加10名 部会長:今宮信吾先生
内 容	実践中の事例の経過報告とアドバイス。

⑲北九州市はがき新聞講習会(講師派遣)	
日 時	2月23日(土)14:00～17:00
場所・参加者	北九州市教育委員会会議室 参加65名(国語教諭) 講師:徳永加代先生
内 容	北九州市教育委員会主催。はがき新聞を中心にした研修会。

⑳はがき新聞研究会関東部会(主催)	
日 時	3月24日(土)13:30～17:30
場所・参加者	財団会議室 参加23名
内 容	・はがき新聞の実践例報告等。 ・言葉ノート、言葉のポケットについての報告、討議。

㉑はがき新聞研究会関西部会(主催)	
日 時	3月25日(日)13:30～17:30
場所・参加者	新大阪丸ビル別館 参加22名
内 容	・はがき新聞の実践例報告等。 ・言葉ノート、言葉のポケットについての報告、討議。

㉒学級力向上研究会関東部会(開催支援)	
日 時	3月28日(水)13:30～17:30
場所・参加者	早稲田大学 政経学部講義室 参加26名
内 容	実践報告6件。愛知県の勝幡小学校村瀬先生の学級力アンケートのグラフ化のプログラムが発表された。学級力そのものの推進に貢献するものであり財団ホームページに専用のページを開設し全国に広めたい。

【B】情報提供事業

B-1 教育関連出版物の刊行

①通信づくりのノウハウ本等の助成冊子を配布。 ・学級通信ネタ&デザイン集等
--

B-2 研究情報誌の発行

①機関誌『季刊理想』の発行 ・読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう誌面の充実を図った。助成品紹介コーナーを新設。
--

B-3 ホームページの運用

①常に新鮮な情報をアップ ・一層の見易さを目指し、トップ画面のリニューアルやスマートフォン対応を行った。

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援事業

①第54回小中学生記者の文化財取材コンクール(後援)	
日 時	取材会7月28日(金) 14:00~16:30 美術院国宝修理所 西洞院工房 参加 小中学生 約80名 審査会9月29日(金) 17:00~19:00、表彰式11月24日
内 容	公益財団法人京都古文化保存協会主催。7/28対象は小中学生。西洞院工房見学後、小学生は龍谷ミュージアムではがき新聞を作成。中学生は原稿用紙3枚。 9/29はがき新聞の入賞校は6校、中学校部門は京都教育大附属桃山中学校が8部門独占、他は双ヶ丘中学校が1点入賞。

②第17回横浜市総合文化祭(協賛)	
期 間	8月2日(水)~2月17日(土)
場 所	横浜情報文化センター他
内 容	横浜市教育委員会主催。協賛金提供と中学校の学校・学級新聞展示会にかかわる作品集制作支援をした。

③第1回全国はがき筆文字展(協賛)	
日 時	10月31日(火) 11月2日(木)
場 所	沖縄県宮古島中央公民館
内 容	主催:全国はがき筆文字展実行委員会、共催:美術新聞社 はがきサイズの紙に筆で書かれた形式自由の書作品。応募総数は全国から約2,000点の応募。

C-2 新聞教育の普及・振興

①第60回全国新聞教育研究大会 東京大会(後援)	
日 時	7月31日(土)~8月1日(日)
場所・参加者	北区赤羽会館 初日来場者140名 通算222名
内 容	大会主題は「生きる力を育む新聞教育~主体的・対話的で深い学びを通して~」。基調講演は毎日新聞社の岸井成格特別編集委員。初日の分科会では、はがき新聞研究会メンバー堺市立新浅香山小学校の倍先生の実践発表、松戸市立上本郷第二小学校の倉本先生の事例発表もはがき新聞であった。2日目のワークショップも埼玉の教育指導員小谷野先生による、はがき新聞の講座と多くの時間がはがき新聞であった。各先生にはがき新聞の原稿用紙、冊子等を支援した。尚、全新研60周年記念誌発刊に際し印刷の助成を行った。

②岩手県新聞教育研究協議会新聞づくり指導者夏季講習会(講師派遣)	
日 時	8月9日(水)
場所・参加者	岩手大学教育学部附属小学校 参加者35名 講師:齋藤真結美先生(酒田市立琢成小学校)
内 容	・新聞教育を主とする齋藤真結美先生の実践を基にした講習。はがき新聞の教育効果も交えたお話と参加者との質疑応答によって充実した会であった。

③第51回まめ記者講習会 神奈川県私立小学校協会新聞教育研究会(運営支援)	
日 時	8月14日(月)~17日(木)
場所・参加者	東京晴海グランドホテル 参加者123名

内 容	・子どもたちと先生が、4日間合宿しながら新聞づくりを通してものの見方、考え方を取得していく講習会である。印刷機、消耗品の提供をした。
-----	--

④世田谷区立中学校教育研究会 後期新聞教育研究部会(講師派遣)	
日 時	11月8日(水)15:30~17:00
場所・参加者	世田谷区立千歳中学校 参加24名 講師:齊藤真弓先生(杉並区立桃井第四小学校)
内 容	テーマ:はがき新聞の実践について

⑤平成29年度 岩手県小・中学校新聞コンクール(支援)	
日 時	表彰式12月5日(火)
場所・参加者	滝沢市 ビッググループ滝沢
内 容	岩手県新聞教育研究協議会主催。3年前にはがき新聞の優秀作品を表彰する部門ができ、県内のはがき新聞普及に貢献している。応募831点(小24校、中63校)の内、はがき新聞の応募点数(学級数)は、小学校10、中学校30であった。財団賞の授与と、入賞作品集制作を支援した。

⑥第7回愛媛県NIE研究会(講師派遣)	
日 時	1月20日(土) 13:30~15:30
場所・参加者	愛媛県PTA会館2階会議室 参加60名 講師:川口加代子先生(NIEアドバイザー)
内 容	テーマ:「ワークショップ はがき新聞づくり」 NIE推進協議会幹事社の愛媛新聞社の支援もあり、会議室満室の盛況で開催された。

⑦H29年度北海道十勝新聞教育研究会教育実践講演会(講師派遣)	
日 時	2月10日(土)
場所・参加者	十勝毎日新聞社 参加者40名 講師:達富洋二先生(佐賀大学)
内 容	テーマ:「新聞を活用した言語活動が創造する深い学び」

⑧第1回CHIBAこども新聞コンクール(支援)	
日 時	審査会 2月20日(火)13:30~17:00
場所・参加者	千葉日報社会議室 千葉県教育委員会、同市教育委員会、学校長代表からなる審査員10名
内 容	千葉県新聞教育研究会・千葉日報社共催の初めてのコンクール。財団賞を授与。学校・学級応募184点。はがき新聞応募48点(27%)。
日 時	表彰式 3月10日(土)13:30~15:00
場所・参加者	アリオ蘇我 サンコート広場 参加者:受賞者および保護者
内 容	6部門(学校新聞×2・学級新聞×3・はがき新聞×1)各部門県知事賞、教育長賞等。

⑨第44回東京都小・中学校新聞コンクール(協賛)	
日 時	表彰式 2月24日(土)
場所・参加者	毎日新聞本社ホール
内 容	東京都小学校新聞教育研究会、東京都中学校新聞教育研究会主催。審査会参画、参加賞提供、作品集制作支援。

⑩第52回北九州市新聞コンクール(支援)	
日 時	表彰式 2月25日(日) 10:00~12:00 (小中学校部門・PTA部門)
場所・参加者	毎日会館ホール 参加者:受賞者及び保護者多数
内 容	北九州市新聞教育研究会主催のコンクール。学校新聞の部11紙、PTA新聞の部68紙。年々応募が減少しているとの事。コンクール活性化のために「はがき新聞」部門の創設を提案。

⑪第67回全国小・中学校・PTA新聞コンクール(後援)	
日 時	表彰式 3月3日(土)
場所・参加者	毎日新聞本社ホール
内 容	毎日新聞社、毎日小学生新聞、全国新聞教育研究協議会主催。審査会参画、各賞副賞提供、学習新聞の部の小学校、中学校各1校に対し理想教育財団賞を授与した。

C-3日本人学校等への支援・助成

①海外日本人学校等への支援・助成	
内容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校へ図書を送付。
寄贈先	①バンドン日本人学校(インドネシア)②パナマ日本人学校(パナマ共和国)③サンパウロ日本人学校(ブラジル)④リヤド日本人学校(サウジアラビア)⑤コロラド補習授業校(アメリカ)⑥ブタペスト補習授業校(ハンガリー)⑦プノンペン補習授業校(カンボジア)⑧キャンベラ補習授業校(オーストラリア)⑨アイオワシティ補習授業校(アメリカ)⑩ニュルンベルグ補習授業校(ドイツ)

②ネパール教育支援	
内容	ネパールへの教育支援を継続する。寄贈先及び寄贈する図書・教材等は現地で調達し寄贈する。
対象	ネパール日本子ども図書館、バネパひかり幼稚園、シクシャールサダン高等学校、カレリ・セカンダリースクール、パンチャカナン・エレメンタリースクールに対して図書・教材を送付。

③エジプト教育支援	
内容	エジプト・日本パートナーシップ(EJEP)による日本式教育のエジプトへの導入に携わる國學院大学の杉田教授からの紹介。教育システムはJICAと共に専門家が指導に当たっているが印刷事情が非常に悪いとの事で日本式教育と共に高性能の印刷機のニーズがあると聞き、EJEPへの側面的な支援として印刷機の寄贈を検討する。
対象	1) 日本式教育のパイロット校のうち3校を対象に寄贈する。 ⇒教育大臣の方針転換にて寄贈先は再検討となり2018年9月以降となった。

C-4コンクールの開催・顕彰

①第13回「プリントコミュニケーションひろば」	
募集期間	平成29年1月2日～3月31日
応募状況	小学校284点、中学校312点、高等学校20点 その他1点 計617点 (前年比-67点)
審査	4/15一次審査会(小学校)、4/22一次審査会(中高等学校)、5/14最終審査会
受賞校	最優秀賞 函館・亀田中学校学級通信「亀の湯」(教諭 川端裕介氏) 部門別優秀賞 広島・宮島小学校、青森・六戸中学校、北海道・鹿追中学校、愛知・大樹小学校 特別賞×3点、部門別優良賞×8点、ひろば賞11点

②第14回「プリントコミュニケーションひろば」	
募集期間	平成30年1月2日～3月31日

その他の事項

1.会議の開催

①理事会・評議員会

- 第28回理事会 5月24日
- 第7回定時評議員会 6月19日
- 第30回理事会 11月27日
- 第31回理事会 3月20日

②通信の教育効果等調査研究会議

- 第14回 5月18日
- 第15回 8月31日
- 第16回 12月13日

以上